



からしだね

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭：デニス・マックゴワン神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) :

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/

2016年
3月号 (514号)



崎津カトリック教会(熊本県天草市) 教会の紹介文書は3ページ

巻頭言	2	崎津カトリック教会	3
円ブリオ基金への募金協力に感謝	4	1冊の本が教えてくれた	5
みことばの分かち合い	6	宝塚黙想の家から	7
ガラスケースの言葉	7		

表紙写真 撮影:神崎

巻頭言

神さまのいつくしみ

松本一宏神父

昨年(2015年)の12月8日(無原罪の聖マリアの祭日)から教会はいつくしみの特別聖年を過ごしています。皆さんはどれくらい意識しているのでしょうか。ヴァチカンのサン・ピエトロ聖堂をはじめ、世界中の教区では聖なる扉が開かれて、その扉をくぐり、定められた祈りをするので、特別の恵みがいただけるようになっていきます。大阪教区でも、カテドラル(玉造教会)と仁豊野ヴィラに聖なる扉が設置されていますので、巡礼して扉をくぐり、祈りを捧げてみてはいかがでしょうか。

ところで、いつくしみとはなんでしょう。何となく分かるような気もしますが、改めて考えてみると、うまく言えないかもしれません。あわれみ、という言葉も良く耳にしますが、何か違いがあるのでしょうか。私も分かったような気でいましたが、本当のところはかなりぼんやりしています。フランシスコ教皇が出した大勅書によると“いつくしみ一、それはわたしたちの罪という限界にもかかわらず、いつも愛されているという希望を心にもたらすもので、神と人が一つになる道”とあります。

先日、あるシスターがいつくしみをmercy and compassionと訳されたのを聞いて、なるほどと思いました。神さまのいつくしみは、ただ相手のことを思って優しくするとか、何かを与えることに留まるのではなく、他者の思いや体験、生きている現実を自分のものとして共にすることでもあるというのが分かります。また、前田大司教の新生の日メッセージの中で、ユスト高山右近は人々の喜びと悲しみを共に生きることを通して神のいつくしみを生きた、と言われていています。やはり、神さまのいつくしみはcompassion(共感)がキーワードかもしれません。

どうしたら私たちは自分以外の被造物と、周りの人々と共感することができるのでしょうか。どうしても自己中心になって、自分の必要を満たすことを求め、自分の視点からしか見ることができません。この世界が抱えているいろいろな苦しみを関係のないものとして考えてしまいます。知らない誰かの喜びを同じ心で喜ぶことをあまりしないかもしれません。違う考えを持つ人々と一緒に歩むのは簡単ではないので、自分の目だけで世界を見て、判断して、進んで行こうとします。

そんな私たちに、いつくしみの特別聖年は神さまの心で、神さまと同じように生きるようにと教えてくれます。イエス・キリストを通して神さまのいつくしみは完全に現されています。それは忍耐強く私たちを見守り、何度過ちを繰り返しても赦し、愛し続けてくださる姿です。まさに聖書にあるように、放蕩息子を両腕を広げて喜んで迎える父親のような神さまの心です。私たち一人ひとりの抱えている十字架を神さまは共に担ってくださり、どんなに小さな喜びも一緒に喜んでくださいます。神さまの私たちへのいつくしみを思い起こすことが、私たちもいつくしみを持って生きるようになる第一歩だと思います。

聖なる扉を通る時、神さまの心がかいつも私たちに開かれていることを体験します。開かれた心によって神さまは私たちと一つとなっていていつも共にいてくださいます。聖なる扉をくぐる時、私たちもまたこの世界に向けていつも開かれているものであるようにとの呼びかけを思い起こすことができます。開かれた心によって、世界が今体験している様々な困難も喜びも同じ心で共にすることができます。神さまのいつくしみ深さを味わう特別聖年が恵みの時となりますように、そして私たちが真にいつくしみ深い存在となれますように。

崎津カトリック教会

住所:熊本県天草市河浦町崎津539

崎津教会は、アルメイダ神父により1569年（永禄12年）2月23日に建てられ、ここを中心にして、キリスト教は天草に栄えたのでした。然しながら、1638年（寛永15年）の禁教令が天草で実施されてから崎津では特に激しい迫害の嵐が吹き荒れました。

公然と信仰を明らかにすることを禁じられたキリスト教徒は、隠れキリシタンになり、ひそかに真夜中に一緒に集まって神を礼拝し、お祈りを捧げていました。隠れキリシタン達は、生命や財産をかえりみず信仰こそ何物にも勝る宝であり、幸福の源泉であると固く信じていました。この宝を子孫に伝えるために、7人の村人を先生として選び、「水方」と名付けました。此の名は水方の仕事の一つである洗礼の儀式から取られたものです。即ち、洗礼の儀式では魂の浄めのシンボルとして、水を注ぐことが必要とされるからです。キリスト教徒を狩り出すために、踏絵が毎年行われました。

1872年(明治5年)にキリシタン禁制の高札が廃止されるや、カトリック神父が、240年ぶりに再び崎津に帰ってきて、隠れキリシタンから熱烈な歓迎を受けました。

かくして、二世紀半の間、文字通り隠れて守り抜いた先祖代々の信仰を、公に行う事の出来る新しい時代が訪れたのです。

此の教会は明治以来3度建て直され、現在のものは長崎の鉄川与助施工によるゴシック風建築であります。正面の祭壇のある場所で迫害時代に激しい踏絵が毎年行われていました。現在この教会は、崎津の400名の信者の祈りの家として、毎日使用されています。

平和の願いをこめて神に祈る時、もはやあなた方は単なるキリシタンの夢の島への歴史の探究者ではありません。平和な世界の協力者、平和のための巡礼者となられるのです。

キリストは次のように約束なさいました。

「平和のために働く人は幸いである
彼らは神の子らと呼ばれるのであろう。」



石碑の文

わざわざ訪れて下さった皆様もどうぞ自由にお入り下さいませ。(尚神聖な場所ですのでお静かにお祈り下さいます様お願いします)世界に平和が訪れるよう神に祈りましょう。自分自身の言葉でお祈り下さっても、教会の入口に置いてある祈りのしおりを使ってお祈り下さっても結構です。

円ブリオ基金への募金協力に感謝！

皆様の協力で得られた募金（6回目、13,705円）を1月25日、NPO法人円ブリオ基金センター*に送金させていただきました。有難うございました。これまでと合わせた募金総額は39,188円となりました。

人工妊娠中絶、その背後には様々な事情があるでしょう。しかし、体内に宿る小さな命は、神様によって造られ、神様に会い、愛されるべき尊い命なのです。皆さまの小さな善意が、この小さな命の救いの一助となっています。塵も積もれば山となります。一口1円で結構です。これからもご協力のほどよろしくお願いいたします。

募金箱は、毎日曜日に、聖堂入口にある長机の上に置かれています。

円ブリオ基金趣旨賛同者

(カトリック箕面教会) 若林

(カトリック池田教会) 松下 良

*NPO法人 円ブリオ基金センターは、赤ちゃんが健やかに生まれ、育つことが出来、親が子育てを通して幸せを感じられる社会作りを目的に国民の皆様から一口1円を募り、それを基金として出産費などの支援活動をしています。「エンブリオ」とは8週までの胎児という意味です。



1冊の本が教えてくれた

橋口

(第8期アルファ・コース受講者)

とある店で『神様が書いた4つの詩』というタイトルの本を見つけた。本の内容も確認しないでタイトルと表紙だけで購入しました。本のタイトルにあるように、4つの詩の中で『神様の配慮』という詩があります。全文書くのは避けませんが、『神様の配慮』で書かれてて心に響いた部分を抜粋して紹介したいと思います。

- ・より偉大なことができるようにと、健康を求めた。だが、より良きことができるようにと、病弱を与えられた。
- ・人生を楽しみたいと、あらゆるものを求めた。だが、あらゆることを喜べるようにと、質素な生活を与えられた。
- ・求めたものは、何一つとして与えられなかった。だが、「人生の意味を味わいたい」「悔いのない生き方をしたい」という私の願いは、すべて聞き届けられた。
- ・私は、今、気付いた。あらゆる人の中で、もっとも豊かに、祝福されていたのだ。

私自身も、神様にお願いをして聞き入れられなかった事は沢山あります。でも、与えられた事もあります。それは、病気を受け入れ、今を精一杯生きる事。嘆いても病気は治りません。嘆く前に『今』を考えるようになりました。十字架の道行きでのイエス様の苦しみに比べれば今の状況なんて！と思えるようになりました。元々、キリスト教と無縁だった私は、カトリック池田教会に通いだし、生きがいや神様から与えられました。たまたま見つけた1冊の本が、神様からのメッセージだったのです。

人それぞれ、人に言えない悩みや苦しみなどあります。対人、家族、子育て、仕事、学校、病気など自分にしかわからない苦しみがありません。今の状況が不幸と思えば不幸になりますし、世の中には自分より大変な人もいて、今の自分は幸せだと思えば幸せになるのです。

神様にお願いして与えられなくても、今の状況は神様から与えられたもの。与えられた中で、どのように生きていくかは自分次第なのです。機会があれば『神様が書いた4つの詩』を読んでいただき神様からのメッセージを、どうか受けとってください。自分は1人じゃない、いつも側にイエス様がいてくれるのだから。

みことばの分かち合い

■使徒言行録 23章2～9節

米花

「すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日『美しい門』という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。その男が、何かもらえんと思つて二人を見つめていると、ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」そして右手を取つて彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、躍り上がつて立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入つて行った。民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。」

施しを乞うこの人はかつての自分だと思ひました。神を求めていたのだということが神に出逢つて分かりました。そして、そこに目が開かれると、罪から解放されて、御知恵に諭されすべてのことを究極の目的に与るものと積極的に評価し讚美の中に歩いて行くことができるようにしてくださいました。私の内面は、神の名によって立ち上がり躍り上がつて讚美するこの男の人のようです。それはこの上ない喜び、神の恵みです。以前は聖書を見ると不思議に感じる物語がいくつもありました。例えば、出エジプト記に出てくるファラオ、あの王様は神の言いつけを実行せず、神から十の災いを受けても懲りることなく、神がエジプトから導き出されたイスラエルの人々を追いかけていく。それを見ると神を畏れないその王様の行動を私はとても不思議に感じていたのです。けれど聖書に「神がファラオの心をかたくなにされた」から、といわれるのを見て納得しました。そして、「イスラエルの民のためにわたしが彼らと戦う」と仰せられ、イスラエルの民に道を開いてエジプト軍から救われる。民はその救いを見る。ここに、「神の業がこの人に現れるためである」（ヨハネ福音書9の3）とのみことばが実現したことを思ひました。人生はいろんなレベルで試練と見えることが与えられますが、みことばに信頼すると、それは御業が行われるためである、と却つて希望を持って対処していくことができ、それを肌で感じさせてくださるのでより確信が得られ挫折することなく、寧ろ喜びの中に御用をさせていただける。絶えず奥底に、主よ、あなたがすべてご存知です。それで十分です、という思いが与えられている。ダビデが、「わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、わたしは決して動揺しない」（使徒言行録2の25）と言われるように、先ず神を見て、祈り、動いていけることがうれしい。

すべてはみこころのままに



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

3月17日(木) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内神父

3月18日(金) 10:00 ~ 15:30 指導: 山内神父



■四旬節黙想会

3月12日(土)17:00 ~ 13日(日)15:30 指導: ウォード神父

■聖週間黙想会

3月24日(木) 17:00 ~ 27日(日) 朝食後 指導: 山内神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

3月のガラスケースの言葉

たとえ、山を動かす程の完全な信仰を持っていようとも
愛がなければ無に等しい

コリント1 13の2



編集後記

昨年の夏、手にウイルス性のイボができて、液体窒素で焼く治療をしてもらった。初診は1,480円、以後の治療は850円で6回、最後は治療なしの診断のみで380円。トータル6,960円でした。黒木亮氏の著作「世界をこの目で」に、同じ治療をイギリスで受けたときのことが書かれていて、驚いた。イギリスにはタダで受けられる公的医療があるが、財政状態が厳しく、順番待ちが長く、医療の質や患者の扱いもよくない。実費診療の医者にかかるとう医療の質は当然よいが、費用は恐ろしく高い。ウイルス性のイボを液体窒素で焼く治療は一回5,6万円。私のケースだと35万円から42万円かかることになる。TPPが署名を終えいよいよ現実になろうとしている。日本の優れた国民皆保険がどうなるのか不安だ。絶対に守りたい。
(百日草)